

第70回日本ハンドボール選手権大会（男子の部）

戦況用紙

日時 2019年2月2日（土）

場所 山鹿市総合体育館（Aコート）

回戦 準決勝

A 22 大同特殊鋼 (JHL) ● 20 $\begin{pmatrix} 11 - 13 \\ 9 - 16 \end{pmatrix}$ 29 ○ トヨタ車体 (JHL)

戦況	前半	大同特殊鋼・尹の先制点でスタート。トヨタ車体の速攻及びサイドシュートを大同特殊鋼G K久保が連続好セーブで凌ぎ、開始5分で1対1のロースコアな展開。トヨタ車体は高智の連続得点などで10分までに3対2とリードするが、大同特殊鋼は尹の7mTを含む3得点で15分までに5対5の同点に追いつく。その後は、大同特殊鋼は尹のミドルシュート、トヨタ車体は吉野のミドルシュートや渡部のサイドシュートで一進一退の攻防が続く。25分過ぎから途中出場の石戸のカットイン、津屋のミドルシュートで連続得点したトヨタ車体が、このリードを守り、2点リードして前半を折り返す。
	後半	開始早々トヨタ車体は吉野、高智の連続得点で点差を4点に、さらに吉野、津屋、杉岡の3連続得点で、後半7分で点差は6点に広がる。大同特殊鋼も尹が強烈なシュートを放つが、トヨタ車体G K甲斐の好セーブに阻まれる。その後も甲斐が好セーブを連発し、リズムに乗ったトヨタ車体は杉岡、渡部の両サイド、中央からは吉野が着実に大同特殊鋼ゴールに突き刺さり、さらに点差が広がり、残り6分には11点の大量リードを奪う。その後トヨタ車体が立て続けに二人の退場者を出す。甲斐に代わって出場したG K加藤が好セーブを連発、大同特殊鋼に反撃の糸口を掴ませない。結局、堅守と運動量で上回ったトヨタ車体が9点差をつけて大同特殊鋼に快勝、4年連続の決勝進出を決めた。

記入者

今田 隆恵

☆延長、7mTCの場合、下記行を挿入して使用ください。

1延長 -

2延長 -

7mTC -

※延長戦の得点は総得点に加算、7mTCは加算しない。